

感染症情報 1月25日～31日

府下小児科200医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1256例（堺市 39例）
②溶連菌感染症	564例（堺市 32例）
③おたふくかぜ	129例（堺市 13例）
④伝染性紅斑	128例（堺市 3例）
⑤RSウイルス感染症	121例（堺市 5例）

府下小児科・内科307医療機関（堺市28）から

インフルエンザ 6233例（堺市 430例）

が報告された。

インフルエンザを除く感染症は前週から2%減少し、第1位が感染性胃腸炎、第2位が溶連菌感染症、第3位がおたふくかぜとなっている。インフルエンザは2.2倍と倍増し、定点当たり20.3と注意報レベルの10を超えた。全国的には定点当たり22.6で新潟県39.4、沖縄県34.3、福岡県31.9と5県が警報レベルの30を上回った。直近5週間では7年前に大流行したAH1pdm09が最多でB型が続く。2月2日現在、堺市でも5校6学年で学年閉鎖、17校27クラスが学級閉鎖となっている。